

福島第一原子力発電所の状況

2016年6月2日
東京電力ホールディングス株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (6/2 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	給水系：約 2.5 m ³ /h	20.8	0.51 kPa g	A系： 0.00 vol %
		炉心スプレ系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.00 vol %
2号機	淡水 注入中	給水系：約 1.9 m ³ /h	26.2	5.25 kPa g	A系： 0.02 vol %
		炉心スプレ系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.02 vol %
3号機	淡水 注入中	給水系：約 1.9 m ³ /h	23.3	0.28 kPa g	A系： 0.03 vol %
		炉心スプレ系：約 2.4 m ³ /h			B系： 0.02 vol %

< 2. 使用済燃料プール(SFP)の状況 > (6/2 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	SFP 水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	23.4
2号機	循環冷却システム	運転中	20.1
3号機	循環冷却システム	運転中	19.5
4号機	循環冷却システム	運転中	20.1

各号機 SFP および原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

< 3. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (6/2 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種 除去設備 (ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多 核種 除去設備
運転 状況	停止中 ^{*1}	運転中 ^{*1}	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット 試験中 ^{*2}	ホット 試験中 ^{*2}	ホット 試験中 ^{*2}

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。 *2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

< 4. その他 >

・2014/6/2 ~ 陸側遮水壁工事を開始。

2016/2/9 陸側遮水壁の凍結に必要な工事が完了。

2016/3/31 11:20 試験凍結において、ブライン(不凍液)循環設備の健全性の確認等ができたことから、凍結運転(第一段階)を開始。凍結運転は建屋内滞留水と建屋周辺の地下水位が逆転するリスクを低減するため、三段階に分けて実施する計画で、第一段階では1~4号機の内側全面と山側の一部を凍結することで進めていく。

・2015/5/27 ~ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽の解体作業を開始。

・2016/6/1 7:54 頃 福島第一原子力発電所敷地境界付近のモニタリングポスト No.2 近傍(敷地北側)に設置しているダストモニタにおいて、ダスト放射能濃度の上昇を示す「高警報(警報設定値: 1.0×10^{-5} Bq/cm³)」が発生。8:52 当該ダストモニタの「高警報」が発生した際に使用していた紙を回収したところ、指示値が通常範囲内まで低下したことを確認。なお、「高警報」が発生した際、当該ダストモニタ以外の発電所構内のダストモニタおよびモニタリングポストの指示値に有意な変動はない。また、当該モニタ周辺にてダスト上昇に繋がるような作業ならびに1号機原子炉建屋カバー解体工事作業を行っていないことを確認。

7:50 時点の風向および風速は< 風向: 西、風速: 2.5m/s >。当該ダストモニタの指示値が上昇する約1時間前から、西の風約2~4mとなっており、発電所敷地外から発電所方向に向かって吹いていることを確認。

同日 11:30 頃、当該ダストモニタにおいて「高警報」が再度発生。11:48 に自動復帰したことを確認。再度発生した際に使用していたろ紙を回収するとともに、12:16 から 12:36 にかけて、当該ダストモニタ近傍でダストサンプリングを実施。なお、「高警報」が発生した以降、当該モニタ以外の発電所構内のダストモニタおよびモニタリングポストの指示値に有意な変動はない。また、再度発生した時間帯においても、当該ダストモニタ周辺にてダスト上昇に繋がるような作業は行っていないことを確認。

午前 11:36 時点の風向および風速は〈風向: 西、風速: 5.4m/s〉。

同日 7:54 に発生した際に使用していたろ紙を回収してガンマ核種分析を行った結果、天然核種(ビスマス 214)以外の核種は未検出。

当該ダストモニタについては、機器異常も考えられることから、13:10 ~ 13:30 にかけて、当該ダストモニタの機器交換を実施し、交換後の指示値は通常値であることを確認。

当該ダストモニタの「高警報」が発生した原因について調査した結果、以下のことから、当該モニタの機器異常であると判断。

- ・ダスト濃度上昇時の各プラントパラメータに異常がないこと
- ・当該モニタ以外の敷地境界ダストモニタ、モニタリングポスト、構内ダストモニタ等に異常がないこと
- ・当該モニタ周辺において、ダスト上昇に繋がるような作業は行っていないこと
- ・核種分析の結果、天然核種(ビスマス 214)は確認されたが、「高警報」(警報設定値: 1.0×10^{-5} Bq/cm³)に至らない濃度であること
- ・ろ紙を交換していない状態で、警報がクリアしていること(通常、ダストを感知した場合、ろ紙を交換しないと警報はクリアしない)

また、核種分析結果は、以下のとおり。

< 1回目の警報発生時のろ紙 >

- ・ビスマス 214: 2.5×10^{-8} Bq/cm³

< 2回目の警報発生時のろ紙 >

- ・全て検出限界値未満

(ビスマス 214 の検出限界値: 3.2×10^{-8} Bq/cm³)

< 当該モニタ近傍のダストサンプリング結果 >

- ・ビスマス 214: 7.7×10^{-7} Bq/cm³

なお、機器異常と判断したダストモニタについては、今後、メーカーにて点検。

[1号機原子炉建屋カバー解体作業]

・2015/5/15 6:45 ~ 5/20 13:11 建屋カバー屋根パネルからの飛散防止剤の散布作業を実施。当該作業期間中において、ダストモニタおよびモニタリングポストの値に有意な変動なし。

7/17 7:06 ~ 7/21 9:10 建屋カバー屋根パネル貫通孔からの飛散防止剤の散布作業が終了。

7/28 建屋カバー屋根パネルの取り外し作業を開始。10/5 に全ての屋根パネルの取り外しが完了。

[サブドレン他水処理施設の状況]

・2015/9/3 サブドレン他水処理施設運用開始。

9/17 ~ 地下水のくみ上げを昼間のみの間欠運転から 24 時間連続運転に切り替え。

・サブドレン他水処理施設一時貯水タンク G の分析結果[採取日 5/25]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、6/1 10:00 ~ 16:24 海洋への排水を実施。排水量は 931m³。

・サブドレン他水処理施設一時貯水タンク A の分析結果[採取日 5/27]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、6/2 9:48 ~ に海洋へ排水中。

・サブドレン他水処理施設一時貯水タンク B の分析結果[採取日 5/28]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、6/3 に海洋へ排水予定。

[地下水バイパスの状況]

・地下水バイパス揚水井 No.1 ~ 12 のサンプリングを継続実施中。

[1 ~ 3号機放水路の状況]

1 ~ 3号機放水路については、1号機放水路上流側立坑および2号機放水路立坑において、セシウム 137 の濃度が上昇したことから定期的に水質調査を実施。

< 最新のサンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[H4, H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連]

< H4・H6エリア周辺、福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況]

< 地下水観測孔・海水サンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績]

- ・地下貯水槽 No.2の貯留水については、汚染水保有リスクを低減するため、6/1 10:05 当該地下貯水槽から多核種除去設備への移送を開始。なお、当該地下貯水槽には、約 1,400m³ の汚染水を貯留しているが、本移送においては、多核種除去設備での処理状況や受入タンク側の空き容量も考慮しながら、既設ポンプによる移送が可能な水位まで、断続的に移送を実施する予定。

- ・3/1 に採取した地下貯水槽 No.1周辺の観測孔 A11～17 の地下水を分析した結果、前回値(2/2 採取)の全ベータ放射能が ND(ND 値 22Bq/L)であったのに対し、最大で 200Bq/L に上昇していることを確認。なお、当該観測孔は3年前に地下貯水槽からの漏えいが確認された以降、NDだったが、全ベータ放射能の上昇が確認されたことから、漏えいの可能性も含めて調査を実施していく。

< 最新のサンプリング実績 >

- ・地下貯水槽周辺の観測孔全ベータ放射能が上昇した件について、6/1 に採取した ~ 観測孔の水の全ベータ放射能分析結果は、至近の分析値と比較して有意な変動は確認されていない。

地下貯水槽 i 南西側の漏えい検知孔水において全ベータ放射能が上昇した件について、6/1 に採取した水の分析結果は、至近の分析値と比較して有意な変動は確認されていない。

なお、過去の変動範囲内で全ベータ放射能に上昇傾向が確認された地下貯水槽 i 北東側の漏えい検知孔水、およびその他の分析結果についても、至近の分析値と比較して有意な変動は確認されていない。引き続き、地下貯水槽および周辺の観測孔について監視を強化するとともに、全ベータ放射能が上昇した原因を調査していく。

以上